へ 13
3740
3

門 3740
3740
巻 3

世に夢多き人あり。病健勞逸共論せず。眼と閉じれば則夢む。素より夢は信ずべからず。

人又信ずべき見るべきものなり。正夢とのたまふ淫邪虫夢の論のごとき北山墨話よりもとづきて說出さんと思ひ。恁くこの夢の講釋をこそ這半員のものやもく人甚こと兒戲の策子とやとバ、證據なるべいく。

▲さるいの由縁

◑赤き血筋の縁に岩藤

素生を聞く忽地に

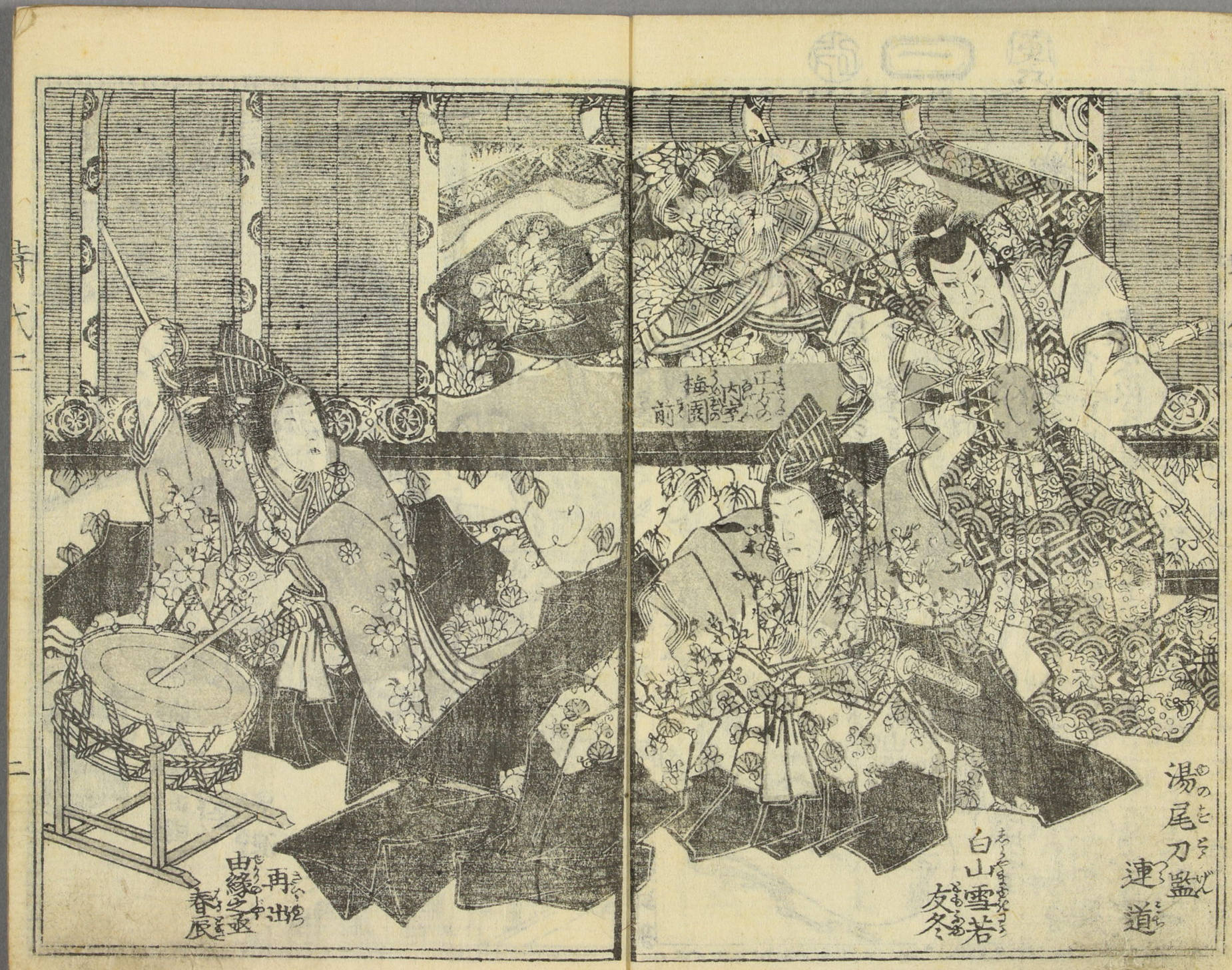
ひとひらの世に

臭名を遺すとの其場に逃れ出でもがたきより其ひとぐちの赴向に倦て偖今の夢るる

ひとこと言せて其場に逃れ出でもがたきより其ひとぐちの赴向に倦て偖今の夢るる

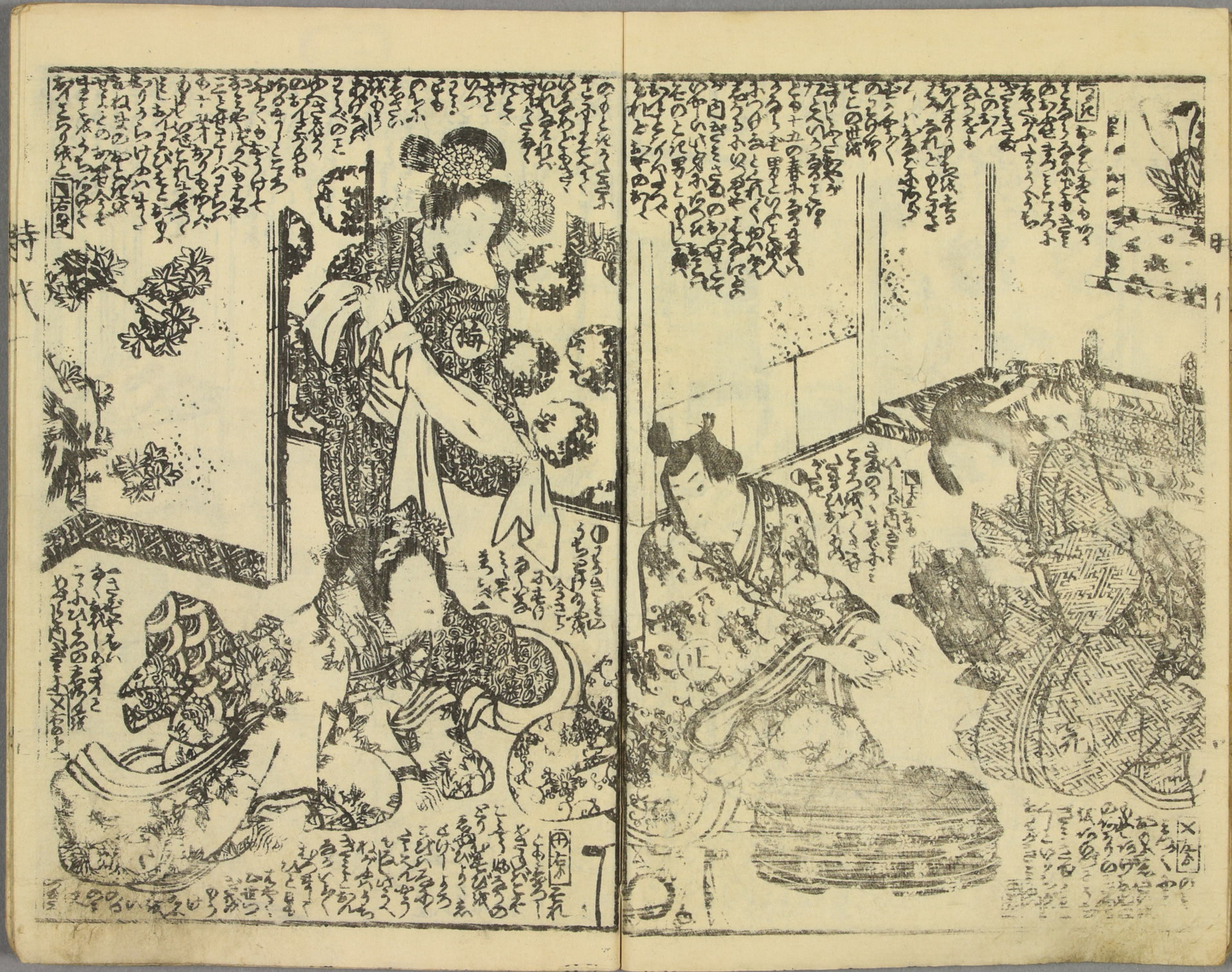
薄ぼんやりこれ夢か夢見るまうるの夜と春の日の暮と端文字換

嘉永八歳卯の初春　爲一永春水誌


梅園の内
前
湯尾刀監
連道
白山雪若
友冬
再出
由縁之返
春辰

長谷部文内
船越惣吾

化花坂四郎
前大領正國の
愛妾
早浪


梅

正かる
影屋力蔵
白山雪若

由
雪

# 風流画半切

越前奉書紙
伊豫奉書紙

○絵もの　○うち半切
○えんぎ　○はま切

## 往齋百図 全

洞郁画

上製 南湖うみ図

## 目録色

## 忠臣義士銘々傳

一盛齋芳虎画

右八大物語二切の内より抜出し彩画中に付記ふかのく和彩の方物語年鑑おくり人事来歴をしるしたる

## 当年新板 春の彩

御年玉進物に表こうへ

若林堂蔵